RUN-UP

1年学年だより第9号
1　年　学　年　会
令和７年７月１８日

ピュアキッズスクールの感想

７月８日(火)に、金沢中警察署の方が来てくださり、ピュアキッズスクールが行われました。各クラスで、いじめの場面のパネルをもとに、被害者の気持ちや未然防止、拡大防止の方法を考えました。その後、放送で警察の方から、いじめが犯罪行為であることや、それに関しては刑事責任、民事責任が生じるという説明がありました。生徒の感想を一部紹介します。

いじめについてよくわかったし、罪に問われるかもしれないことがよくわかりました。私は周りにいじめられている人がいたら助けようと思いました。そして、いじめにあったときは、自分で自分の身を守ろうと思いました。自分はいじめる側にはならないように一つ一つの言動や行動に気をつけていこうと心から思いました。みんなと仲良くしたいです。(1組　北村　萠々伽さん)

今日はいじめについてよく話されたし、相手やいじめられている子の、お互いの気持ちをよく考えられた。今日のこの時間でたくさん考えられたし、色んな状況での気持ちやみんなの気持ちを聞けて良かった。冗談で言ったことも相手は本気に思ってしまうから冗談でも言ってはいけない。もし何かされたら、仲間や親に相談するといい。一人で抱え込んだらだめだ。嫌なことがあったら、誰でもいいからSOSを出すことだ。
(2組　西田　莉衣桜さん)

いじめがエスカレートしていくと、自殺に追いこまれたり、精神的に苦痛があったりすることや、いじめが人の命にも関わると加害者側は罪に問われ14歳未満は親も責任を取らされ、家族の人生も狂ってしまうということなので、絶対にいじめをしてはダメだと身に染みて感じました。侮辱罪や恐喝罪は、小学生でもできてしまうことだから、自分もしてしまうなどのあやまちが起きないように気をつけたいです。仕返しも犯罪になってしまうということも知りました。(3組　水口　真悠里さん)

今日、「いじめ」の話を聞いて、Aさんが家の人に早く相談していなかったら、いじめはもっとエスカレートしていたと思うし、Aさんももう学校に行かなくなると感じました。だから親に相談したAさんはすごく勇気が必要だったんじゃないかなと気づきました。AさんをいじめているbさんやCさんは遊びでやっていたとしても、相手に取ったらすごく重くて傷つくことだし、何の関係もないBさんやCさんの保護者が責任を負わなければならないと思いました。この話を振り返って、私も普段言っている言葉や、行動を見直していきたいと思いました。
(4組　佐々木　華帆さん)

いじめが起こってしまった時に、周りで見て見ぬふりをせずにいじめをしている側に注意をしたり、いじめをされた側の味方になってあげたりして、いじめを見たら警察や親、先生などの大人に言っていじめをやめさせることが大切だと思った。なぜなら、いじめがエスカレートしていったらいじめられている側は何も悪くないのに罪を犯してしまったり、精神がとてもマイナスになったりして自殺をしてしまうなど、取り返しのつかないことにつながってしまうことがあると考えたからだ。(5組　神谷　蒼志さん)

「いじめ」は絶対にダメだけど、小さな「いじり」が大きな「いじめ」になるから、小さな「いじり」もしないようにしようと思いました。そして親や周りに相談できない人たちが「いじめ」に耐えられなくなって、自殺してしまうこともあるから「いじめ」は人の命を奪うことを知りました。相談ができない人は友達でもいいから誰かに相談しようと思ったし、自分も相談しやすい人になりたいと思いました。(6組　中屋　梓彩さん)